

と海風とが合体して、日変化をし厚さが1 kmで水平スケールが200 kmを越える広域的局地風系を作り出すことも事実である(Kondo, 1990 b). 関東地方の場合、関東平野が高崎、前橋方向へ切れ込んでいることが重要であり、藤部(1988)の指摘のように、熱的低気圧の気圧降下が前橋で一番低くなるという事実とよく一致する。

「大規模海風」という言葉が関連しそうな3つの現象について述べた。一つはスケールが大きな低緯度地方で見られる海風であり、二つめは谷風と海風の合体したもので、もう一つは谷風と一般場が特殊な条件のもとに合体したものである。英文名「Extended Sea Breeze」は、谷風と海風の合体したものについて使われているようである(Carroll and Baskett, 1979)。これらの現象について、どんな名前が適切であるのか、実はまだ定まっていないような気がするの、読者のみなさんも考えてみてください。

謝 辞

本原稿を作成するにあたり、公害資源研究所の吉門洋主任研究官に有益なコメントをいただいた。

参考文献

Carroll, J.J. and R.L. Baskett, 1979: Dependence of air quality in a remote location on local and mesoscale transport: A case study, *J. Applied. Met.*, 374-486.

藤部文昭, 1988: 関東地方の局地循環 (I), 気象研究ノート, **163**, 75-88.

———, 浅井富雄, 1979: 関東地方における局地風に関する研究, 第1部 日変化を伴う風系の構造, *天気*, **26**, 595-604.

Garrat, J. and W. Physick, 1985: The inland boundary layer at low latitude: II Sea-breeze influence, *Boundary Layer Meteorology*, **33**, 209-231.

河村 武, 1977 a: 海陸風の気候, 南関東大気環境調査報告書 (I), 46-52.

———, 1977 b: 拡散場の気候値, 南関東大気環境調査報告書 (II), 175-186.

Kondo, H., 1990 a: A numerical experiment of the "Extended Sea Breeze" over the Kanto Plain., submitted to *J. Met. Soc. Japan*.

———, 1990 b: A numerical experiment of the interaction between sea breeze and valley wind to generate the so-called "Extended Sea Breeze", submitted to *J. Met. Soc. Japan*.

栗田秀実, 植田洋匡, 光本茂記, 1988: 弱い傾度風下での大気での大気汚染の長距離輸送の気象学的構造, *天気*, **35**, 23-35.

光本茂記, 植田洋匡, 栗田秀実, 1986: 大規模海風の関東山地越え (その2), 「環境科学」研究報告 B280-R11-2, 65-71.

文部省「環境科学」特別研究; 「内陸域における大気汚染の動態」研究班, 1986: 内陸域における大気汚染の動態, 「環境科学」研究報告 B280-R11-2, 300 pp.

(公害資源研究所・近藤裕昭)

北海道大学工学部数物系共通講座 教授公募

1. 公募人員: 教授 1名
2. 所属部門: 理学第一講座
3. 専門分野: 実験物理学 (流体力学, 量子エレクトロニクス, 光物性のいずれかの分野)
数物系共通講座は学部においては専門基礎教育を担当し, 大学院においては応用物理学専攻に所属している。
5. 着任時期: 決定後なるべく早目の時期
6. 応募資格: 助教授もしくはそれに相当する者. 50歳

以下の方が望ましい。

7. 提出書類: 履歴書, 研究業績および著書リスト, 主要論文別刷 (コピー可), 推薦書
8. 公募締切: 1990年11月30日 (金) (必着)
9. 宛 先: 〒060 札幌市北区北13条西8丁目
北海道大学工学部数物系共通講座
主任 北村 正直
電話 011-716-2111 内線 6727
連絡・問合せ先は上と同じ。